



2012年3月19日  
(財)日本船舶技術研究協会

## 1. 日時及び場所

日 時：2012年3月16日(金) 13:00~17:00

場 所：神戸ポートピアホテル のじぎく・つつじ・すみれ

参加者：造船、海運、船用工業等の海事関係者を中心に約100名

## 2. 各講演の概要

### ◆国際標準化戦略に向けて

経済産業省産業技術環境局 産業基盤標準化推進室 工業標準専門職 中筋 吉彦

- 中筋氏からは、日本の標準化行政を司る立場から、重要性が高まる国際標準化活動について、我が国と諸外国の対応に大きな差異があることを冒頭に述べ、我が国が直面する標準化の課題並びに、国際標準化を成功に導くために経済産業省が取り組んでいる戦略を紹介されました。また、我が国の標準化に対する積極的な取り組みの一例として、IEC 次期会長への立候補や IEC 東京大会の開催（2014 年 11 月）などを挙げ、今次セミナー聴講者に標準化活動への協力が呼びかけられました。

### ◆効果的な国際標準化戦略

(財)日本規格協会技術顧問 原田 節雄

- 原田氏からは、ソニー在職時代に自らの努力で日本発の国際標準獲得に成功した SUICA、QR コード及び電力送電方式に関わる国際交渉における経験談をもとに国際規格開発の重要性を説明されました。特に、他国が作った規格に単に倣うのではなく、自ら規格開発を行うことの重要性が指摘されました。更に、これらを推進するために企業内における標準化技術者とグローバルな人材の育成を若い世代から行うことの必要性が強調されました。

### ◆IMO と ISO の動向と戦略的取り組み

(独)海上技術安全研究所 企画部国際連携センター長 吉田 公一

- 吉田氏からは、IMO及びISOにおける議長職を通じて経験した国際交渉術やIMOとISOの役割、それぞれの機関で策定される国際条約・国際規則（強制）や国際規格（任意）の機能の違いや活用方法について、紹介されました。また、船舶技術分野では韓国及び中国の勢力拡大が顕著となっており、技術の大競争時代を勝ち抜く全日本戦略を構築する必要性が強調されました。そのためにはIMO及びISOで策定する国際条約・国際規則や国際規格策定に自ら積極的に関わることが重要であり、これらを提案できる人材の育成が急務であると強調されました。

### ◆ 船技協の IMO 及び ISO への戦略的取り組み

(a) (財)日本船舶技術研究協会の IMO 及び ISO への戦略的取り組み

(財)日本船舶技術研究協会 安全技術ユニット長 北林 邦彦

- 日本の国際基準と国際規格に関する戦略的対応のため、船技協が産学官と連携するプラットフォームとしての役割を有していることを説明するとともに現在取り組んでいるIMO 及び ISO/IEC に関わる調査研究プロジェクトについて説明しました。

(b) IMO における船内騒音規制の審議状況と船技協の取り組み

東海大学海洋学部 航海工学科 教授 修理 英幸

- 修理氏からは、IMO において審議中の船内騒音規制について、以下のように具体的な説明がなされました。①船内騒音コード改正と SOLAS 改正の審議は DE56 で終了、その後 MSC の審議を経て、最短で 2014 年 7 月 1 日に発効・適用となる予定 ②SOLAS 条約に基づいて船内騒音コードは義務となるが、コード内には義務要件と勧告要件が含まれる ③最大許容騒音レベル規制値は、現行コードと同じあるいは現行コードより 5dB 低くなる ④騒音暴露レベル、居室間の遮音性能、聴力保護なども規制（義務/勧告）対象となる

結びに、船内騒音規制を満足するために、船技協を中心に産学官が協力を進めることの重要性が述べられました。

(c) ISO における船用弁面間寸法規格策定に向けた船技協の取り組み

(独) 海上技術安全研究所 構造系構造解析・加工研究グループ 主任研究員

村上 睦尚

- 村上氏からは、現在我が国から提案中の ISO 規格「ISO 17602 船用弁面間寸法」が NP（新規提案）として昨年 10 月に承認されたことを例に挙げ、①ISO 会議への積極的な継続的な参加、協力者・仲間作り ②規格開発担当 WG 議長ポストの獲得 ③会議に先立つ事前の根回し④日本の国内対応委員会での活動を活発にしたうえでの国内サポーターの充実が ISO 規格を提案する際に重要であると説明がありました。また、村上氏は今回の提案活動によって ISO 17602 開発 WG (ISO/TC8/SC3/WG13) 議長に就任したことから、自身の活動目標として当該規格策定までの見通しを述べられました。



開催挨拶  
(当協会 会長 松田章)



開催挨拶  
(船舶用品標準化推進協議会 藤山昭一 会長)



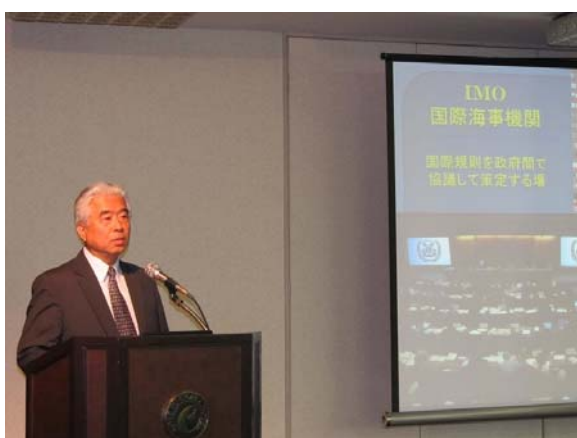
来賓挨拶  
(国土交通省 和田昌雄 神戸運輸監理部長)



国際標準化戦略に向けて  
(経済産業省 中筋 吉彦 氏)



効果的な国際標準化戦略  
(日本規格協会 原田 節雄 氏)



IMO と ISO の動向と戦略的取り組み  
(海上技術安全研究所 吉田 公一 氏)



IMO における船内騒音規制の審議状況  
と船技協の取り組み  
(東海大学 修理 英幸 教授)



ISO における船用弁面間寸法規格策定  
に向けた船技協の取り組み  
(海上技術安全研究所 村上 睦尚 氏)



閉会挨拶  
(当協会 常務理事 田中護史)



会場の様子

## プログラム

### 開会

主催者挨拶 (財)日本船舶技術研究協会 会長 松田章

主催者挨拶 舶用品標準化推進協議会長 藤山昭一

### 国際標準化戦略に向けて

経済産業省産業技術環境局 産業基盤標準化推進室 工業標準専門職 中筋吉彦

### 効果的な国際標準化戦略

(財)日本規格協会技術顧問 原田節雄

### IMO と ISO の動向と戦略的取り組み

(独)海上技術安全研究所 企画部 国際連携センター長 吉田公一

### 船技協の IMO 及び ISO への戦略的取り組み

(a) (財)日本船舶技術研究協会の IMO 及び ISO への戦略的取り組み

(財)日本船舶技術研究協会 安全技術ユニット長 北林邦彦

(b) IMO における船内騒音規制の審議状況と船技協の取り組み

東海大学海洋学部 航海工学科教授 修理英幸

(c) ISO における船用弁面間寸法規格策定に向けた船技協の取り組み

(独)海上技術安全研究所 構造系構造解析・加工研究グループ 主任研究員 村上睦尚

来賓挨拶 国土交通省神戸運輸監理部長 和田 昌雄

閉会挨拶 (財)日本船舶技術研究協会 常務理事 田中 護史

### 閉会